

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大蔵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校3年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均を上回っており、不覚の基本的な事項は理解ができていると考えられる。
	よくできた問題	「読むこと」において、本文に書かれていることを理解するために、必要な情報に着目して要約することができている。
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることに課題が見られるため、紹介や報告などを聞いて質問したり意見を述べたりする活動をより取り入れる等、指導を工夫していく必要がある。
数学	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均を上回っており、数学的な基礎的・基本的な事項の定着ができていると考えられる。
	よくできた問題	関数やデータの活用についてグラフを読み取ったり分布の様子を説明したりすることができている。
	努力が必要な問題	図形の問題を根拠に基づいて証明したり図形の移動について理解したりする問題について丁寧な指導が必要である。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
・「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに肯定的な回答をした生徒が86.5%と高く、自分自身を尊重しポジティブに捉えることができている。 ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに肯定的な回答をした生徒が97.3%と高く、社会に貢献したいという生徒が多いことがわかる。 ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」肯定的な回答をした生徒が97.3%と高く、学年全体がお互いに学び合う環境や関係性ができている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では、情報を読み取り文章を書く作文指導の時間をさらに増やす。
数学科では、グループで課題解決を行ったり説明する課題に取り組んだりし、数学的な思考力を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

生徒自身が授業の学習内容を振り返り、必要に応じて自主的な学習を進めることができるように支援する。